



必要な時に、必要な数だけの本を印刷したい

オンデマンド印刷の可能性を拡げる、デジタル印刷統合管理システム

コニカミノルタは、効率的な教材の提供が課題となっていた米国のスタンフォード大学に対して、デジタル印刷システムと、ウェブサイトからの24時間受付や印刷の一元管理を可能にするアプリケーション「Printgroove」および独自のセキュリティーシステムを組み合わせたソリューションを提案。同大学が研究を進めていた、著作権・特許を保護しながら論文などのデータの受け渡しができるシステム「Stanford Intellectual Property Exchange」と連携させることで、学生は必要な教材を安価に、いつでもオンデマンドで、印刷物やデジタルデータとして購入できるようになりました。



Highlight in 2011

Giving Shape to Ideas

アイデアをカタチにし、 未来に革新をもたらす

お客様の想いや社会の課題などを基点としたさまざまなアイデアをもとに、コニカミノルタは新しいカタチを生み出し続けます。

※ 「Highlight in 2011 Giving Shape to Ideas」における「コニカミノルタ」は、個々の事業会社もしくは関係会社です

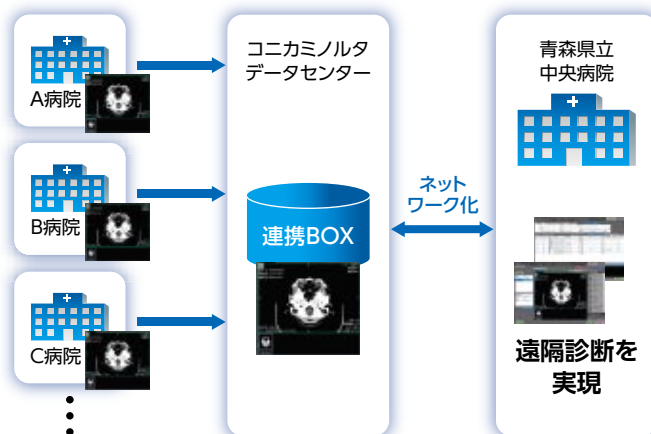


近くの診療所で、専門的な診断が受けられたら…

医療機関の地域連携を可能にした、 先進のネットワークソリューション

青森県立中央病院の脳神経センターでは、脳疾患治療の専門医がほとんどいない県北部の10施設の病院と連携して、ネットワークを介した遠隔画像診断を行っています。そこで活用されているのが、コニカミノルタの医療機関向けネットワークサービスです。複数の医療機関で診察データを共有できる「infomity 連携BOXサービス」によって、脳卒中や頭部外傷で運び込まれた患者さんの診断画像を送って専門医の診断を仰ぐことで、手術のため専門病院に搬送すべきかどうかの迅速な判断を可能にしています。

データ連携サービスによる遠隔画像診断



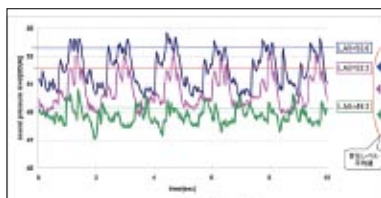
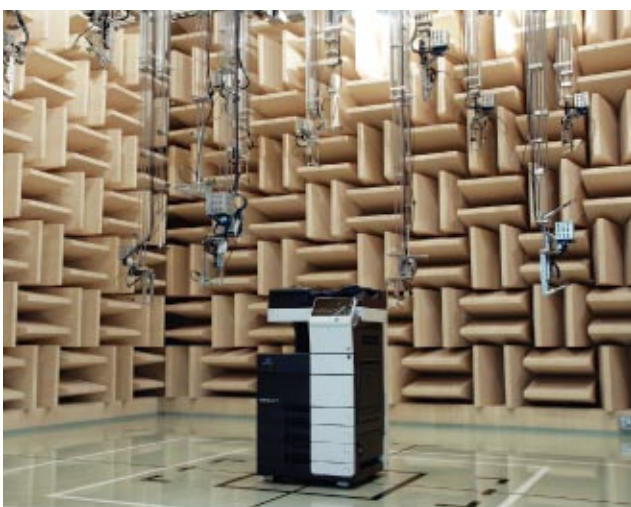


世界中のオフィスのドキュメント出力をコントロールしたい



グローバル企業が抱える課題を解決する、 プリント環境最適化ソリューション

世界中のオフィスで使用する出力機器に関するコストやセキュリティの課題を解決できないだろうか——。こうしたグローバル企業の悩みに応えるため、コニカミノルタは出力機器の運用を一括受託し、最適配置を実現する「Optimized Print Services (OPS)」を提供。例えばドイツの自動車メーカーBMW社からは、欧州圏のオフィスおよび工場における合計6,800台の複合機(MFP)の運用・管理を一括受託し、プリント業務の効率化や情報セキュリティの向上に貢献しています。



書類をプリントするときの音が気になる



快適なオフィス環境を目指して、 複合機の「快音化」技術を開発

コニカミノルタは、複合機(MFP)の動作音を低減する「静音化」を進めてきました。さらに2007年から九州大学との共同研究により、音の強さを減らすだけでなく、人が不快に感じやすい音を減らす「快音化」に取り組んでいます。列車の騒音評価などに使われる手法を活用して動作音を調査し、騒音の原因となる部材や構造を特定して対策を施すことで、望ましい音質にコントロールしていきます。こうした取り組みにより、「動作音が気にならなくなった」との評価^{*}が得られたことから、同様の対策を2012年度以降発売の全機種に採用していきます。

^{*} 社内評価結果

もっと短い時間で、無駄なくきれいに布地を染められたら…

高い生産性と高品質を実現する、 インクジェットテキスタイルプリンター

インクジェット捺染は、パソコンでデザインしたデータをプリンターに転送する方式で、従来必要だった版の作成などが不要なため、プリント納期が大幅に短縮されます。数ピコリットルの微細なインクジェット液滴を正確に布に飛ばすことで、グラデーション、細線、重ね柄など、従来の捺染方式では困難だったデザインを可能にし、高品質なプリントを実現します。2011年に発表したテキスタイルプリンター「Nassenger PRO 1000」は、最高1,000㎡/時の高い生産能力を誇ります。環境負荷が低いことや、高品質、高生産性が評価され、ファッション産業が盛んなイタリアをはじめ、トルコ、インドなど世界で需要が高まっています。



現地に行かなくても、有名な文化遺産を体験できたら…

文化財のデジタルアーカイブを、 臨場感あふれるドーム映像として再現

美術品や建造物などの文化財をデジタル化して保存する「デジタルアーカイブ」は、貴重なオリジナルを保護しながら広く公開することができる有効な手段です。コニカミノルタは、プラネタリウム事業で培ってきた映像技術を活かし、凸版印刷(株)が製作する三次元映像の作品群をドームスクリーン用にコンテンツ化しています。高精細な文化財アーカイブがドーム全体に再現されることで、包み込まれるような臨場感あふれる映像体験を提供し、新しい文化の創造・発信に貢献しています。



投映イメージ画像：VR作品「ウスペンスキー大聖堂」 製作・著作：Moscow Kremlin Museums/TBS/凸版印刷株式会社 協力：電通

省エネで環境にやさしいだけじゃない、
もっとわくわくするあかりがほしい!



Symfos



LED照明の可能性を広げる“面発光”技術

低消費電力で長寿命、発熱も少ないLED照明は、環境負荷が低く経済的な照明として、急速に需要が伸びています。コニカミノルタは、光学技術とフィルム技術を応用し、点光源であるLEDからの光を導光・拡散することによって、面発光を実現する技術を開発しています。薄型で省スペースのフラット照明と、照明デザインとして柔軟性の高いフレキシブル照明の2種類をラインナップして、さまざまなシーンに最適な新しいあかりを提供します。



世界最高水準の発光効率を備えた 有機EL照明パネル

有機物に電圧をかけることで、有機物自体が発光する現象を利用した有機EL照明は、高い発光効率と面光源という性質から、その可能性に大きな期待が寄せられています。コニカミノルタは、独自の「青色リン光発光材料」を用いて、45lm/Wという量産品として世界最高水準の発光効率を実現した有機EL照明パネルを開発し、2011年10月にはサンプルキットとして商品化するなど、次世代照明の新時代を切り拓いています。

貴重なレアアース、再利用はできないの?



限りある資源を低コストで再利用する、 レアアースリサイクル技術を開発

レアアース(希土類)は、産出国に限られることから供給制限とそれにもなう価格上昇が懸念されるとともに、持続可能な社会の実現という観点からも有効活用が求められています。コニカミノルタは、レアアースの一種であり、HDD用ガラス基板の研磨材として使用される酸化セリウムのリサイクル技術の開発に取り組んできました。その結果、フィルム開発で培ってきた材料技術を活用し、研磨後の廃液に薬剤を加えることで、ガラス成分を分離、除去することに成功。大型設備を必要としないため、短時間、低コストでのリサイクルを可能にします。

